

開催地名	滋賀県 高島市
開催日時	令和6年7月21日(日)13:30~15:00
開催場所	高島市藤樹の里文化芸術会館
語り部	松井 憲(広島県広島市安佐南区)
参加者	防災課職員、地域住民、300人
開催経緯	これまで広域避難所を開設する機会がなく、スムーズな運営のために平時、緊急時共にどのようなすべきかを講演を通じ学びたいと考えたため。
内容	<p>■ はじめに</p> <p>講演者の松井憲氏は、長年にわたり防災活動に携わり、特に地域防災の啓発に尽力してきた。今回の講演では、災害発生時の対応、避難行動の重要性、そして地域防災の課題について語られた。</p> <p>松井氏は、過去の災害の教訓を踏まえた具体的な取り組みを紹介した。</p> <p>■ あの日のこと</p> <p>講演では、広島市の土砂災害を中心に、大雨による被害の深刻さについて述べられた。特に、2014年の広島市豪雨災害では、短時間の集中豪雨により土砂崩れが発生し、多くの命が奪われた。</p> <p>災害発生の際</p> <p>2014年8月19日夜から20日にかけて、日本海に停滞する前線の影響で局所的な大雨が発生した。広島市では、多くの被害が発生した。</p> <p>被害状況</p> <p>広島市安佐南区と安佐北区では、土石流が発生し、多くの住宅が流された。消防、自衛隊、警察による懸命な救助活動が行われたが、多くの人命が失われ、多くの負傷者が出た。被害を受けた地域は宅地化が進んでおり、危険区域の認識が不足していたことが課題として浮上した。</p> <p>避難の課題</p> <p>多くの住民が「まさか自分の家が被害に遭うとは思わなかった」と語り、避難の判断が遅れた。また、豪雨の最中、避難すること自体が危険な状況になっていた。</p> <p>■ その後のこと</p> <p>広島市の土砂災害を受け、地域の防災意識向上に向けた取り組みが強化された。</p> <p>避難行動の見直し</p> <p>避難勧告や避難指示の発令基準が見直され、住民がより早く避難できるように改善された。</p> <p>防災教育の推進</p> <p>小中学生を対象とした防災教育が進められ、災害時にどのように行動すべきかを学ぶ機会が増えた。避難所運営訓練や、実際の避難経路を確認する訓練が実施され、実践的な防災意識の向上が図られた。</p> <p>自主防災組織の強化</p> <p>地域住民同士が助け合う仕組みを作るため、自主防災組織の役割が拡大された。災害発生時にどのように連携するかを地域ごとに具体的な計画を策定し、住民主体の防災活動が活発化した。</p> <p>■ まとめ</p> <p>松井氏は、今後の防災対策として以下の点を強調した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 早めの避難を徹底する 災害の発生が予想される場合、「まだ大丈夫」ではなく、「早めに避難する」ことが重要である。特に、高齢者や子どもがいる家庭では、事前に避難計画を立てておくことが求められる。</li> <li>2. 地域防災の強化 住民同士が助け合う「共助」の意識を高める必要がある。自主防災組織を中心に、防災訓練や避難所運営訓練を実施し、災害発生時の対応力を向上させる。</li> <li>3. 防災教育の継続 子どもたちに防災の知識を伝え、家族や地域と連携した避難行動を学ぶ機会を増やす。地域住</li> </ol>

	<p>民が自主的に防災活動に参加することで、実際の災害時に迅速な対応ができるようにする。</p> <p>4. 情報収集と伝達の強化</p> <p>最新の気象情報や避難情報を常にチェックし、迅速に対応できるようにすることが必要である。スマートフォンアプリや防災無線を活用し、住民への情報伝達を強化することで、避難の遅れを防ぐ。</p> <p>最後に、松井氏は「自分や家族の命を守るために、日常から備えを進め、地域全体で防災意識を高めていくことが大切だ」と締めくくった。</p>
開催地より	<p>講演では災害時の課題等を説明いただき、平時の防災への意識が大切だという事を改めて学ぶことが出来た。今回の講演を通じ、地域防災の強化へとつなげたい。</p>